

平安京左京三条四坊十町
烏丸御池遺跡

2011年

古代文化調査会

平安京左京三条四坊十町
烏丸御池遺跡

2011年

古代文化調査会

例　　言

1. 本書は、古代文化調査会が京都市中京区富小路御池上る守山町 156において、マンションの建設に伴い実施した平安京左京三条四坊十町・烏丸御池遺跡の発掘調査概要報告書である。
2. 発掘調査は不二建設株式会社より委託を受けた古代文化調査会の上村憲章が担当した。
3. 調査にあたっては、京都市文化市民局文化財保護課の指導を受けた。
4. 本書の編集は上村がおこなった。
5. 図面及び遺物整理、遺構・遺物の製図は上村が分担し、遺物の実測は板谷桃代、水谷明子がおこなった。
6. 本書の執筆は上村がおこなった。
7. 本書で使用した方位及び座標の数値は世界測地系（新測地系）平面直角座標系VIによる。記載した数値は m 単位で、水準は T.P.（東京湾平均海面高度）である。
8. 本書で使用した地図は、京都市都市計画局発行の 2500 分の 1 の地図（御所・三条大橋）を調整し、使用した。
9. 土壌の色調の表記は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』に準じた。
10. 遺物番号は実測図・写真ともに共通している。
11. 発掘調査及び遺物整理に際して、下記の方々の御指導・御協力を得ることができた。記して感謝の意を表します。（所属・敬称略、五十音順）

家原圭太　井上敬三　宇野隆志　馬瀬智光　河合浩三　北田栄造　黒坂義人
黒瀧宗之　清水洋介　杉森 実　鈴木久史　玉置征隆　西森正晃　長谷川行孝
馬場輝宏　平野哲也　堀 大輔　松本彩子　宮原健吾　宮原浩二　矢井 明
(株)明輝建設　(株)礎　(株)大高建設　近鉄不動産(株)
(財)京都市埋蔵文化財研究所　不二建設(株)　(有)京都編集工房

本文目次

平安京左京三条四坊十町・烏丸御池遺跡

| | |
|----------|----|
| I 調査の経緯 | 1 |
| II 調査の経過 | 1 |
| III 遺構 | 3 |
| IV 遺物 | 7 |
| V 小結 | 11 |

図版目次

| | |
|-------|--|
| 図版 1 | 遺跡 第1面遺構実測図 |
| 図版 2 | 遺跡 第2面遺構実測図 |
| 図版 3 | 遺跡 第3面遺構実測図 |
| 図版 4 | 遺跡 第4面遺構実測図 |
| 図版 5 | 遺跡 東壁、東西セクション実測図 |
| 図版 6 | 遺跡 1 調査地近景（北東から） 2 第1面全景（北東から） |
| 図版 7 | 遺跡 1 第2面全景（北東から） 2 第3面全景（北東から） |
| 図版 8 | 遺跡 1 第4面全景（北東から） 2 富小路路面と西側側溝（北西から） |
| 図版 9 | 遺跡 1 東西セクション部分断面（北東から） 2 井戸 02（南西から） 3 土壙 03（北東から） 4 土壙 12（南から） 5 土壙 14（東から） |
| 図版 10 | 遺跡 1 土壙 39（北東から） |

- 2 土壙 39 断面（北から）
 - 3 室町後期の路面（北西から）
 - 4 柱穴 106（北から）
 - 5 柱穴 145（北から）
 - 6 柱穴 116（北から）
 - 7 富小路路面部分（東から）
 - 8 富小路西側側溝・溝 46 断面（北から）
- 図版 11 遺物 溝 46・土壙 148 出土遺物
- 図版 12 遺物 土壙 148・土壙 47・土壙 39・土壙 22 出土遺物
- 図版 13 遺物 土壙 22・土壙 14 出土遺物
- 図版 14 遺物 土壙 14・土壙 148 出土遺物

挿 図 目 次

| | | |
|------|--------------------|----|
| 図 1 | 調査地位置図 | 1 |
| 図 2 | 平安京条坊と調査地位置図 | 2 |
| 図 3 | 四行八門と調査位置関係図 | 2 |
| 図 4 | 土壙 14 実測図 | 5 |
| 図 5 | 土壙 12 実測図 | 5 |
| 図 6 | 土壙 03 実測図 | 6 |
| 図 7 | 井戸 02 実測図 | 6 |
| 図 8 | 路面西肩部、溝 46 出土土器実測図 | 7 |
| 図 9 | 土壙 148 出土土器実測図 | 8 |
| 図 10 | 土壙 47 出土土器実測図 | 8 |
| 図 11 | 土壙 39 出土土器実測図 | 8 |
| 図 12 | 土壙 22 出土土器実測図 | 9 |
| 図 13 | 土壙 14 出土土器実測図 | 9 |
| 図 14 | 出土瓦拓影・実測図 | 10 |

平安京左京三条四坊十町 烏丸御池遺跡

I 調査の経緯

調査地は京都市中京区富小路御池上る守山町 156 である。当地は周知の遺跡・平安京左京三条四坊十町跡、および烏丸御池遺跡（弥生～古墳時代）に該当する。ここにマンションの建設が計画され、京都市文化市民局文化財保護課による試掘調査の結果、平安時代の整地層や富小路西側溝等が認められた。発掘調査においては、京都市の指導のもと施主との三者協議の結果、当調査会が 2011 年 4 月 11 日より発掘調査をおこなうこととなった。

II 調査の経過

敷地は平安京左京三条四坊十町南東部分、西四行、北七～八門及び富小路西側部分に該当する。十町には、平安時代中期の公卿、右大臣藤原定方の邸宅『中西殿』が存在した。邸宅は定方から永頼へ、さらにその子の太皇太后宮藤原亮能へと受け継がれ、長和 4（1015）年に焼失した（『小右記』同年 4 月 23 日条）。定方は延長 2（924）年に右大臣となり、承平 2（932）年八月に左大

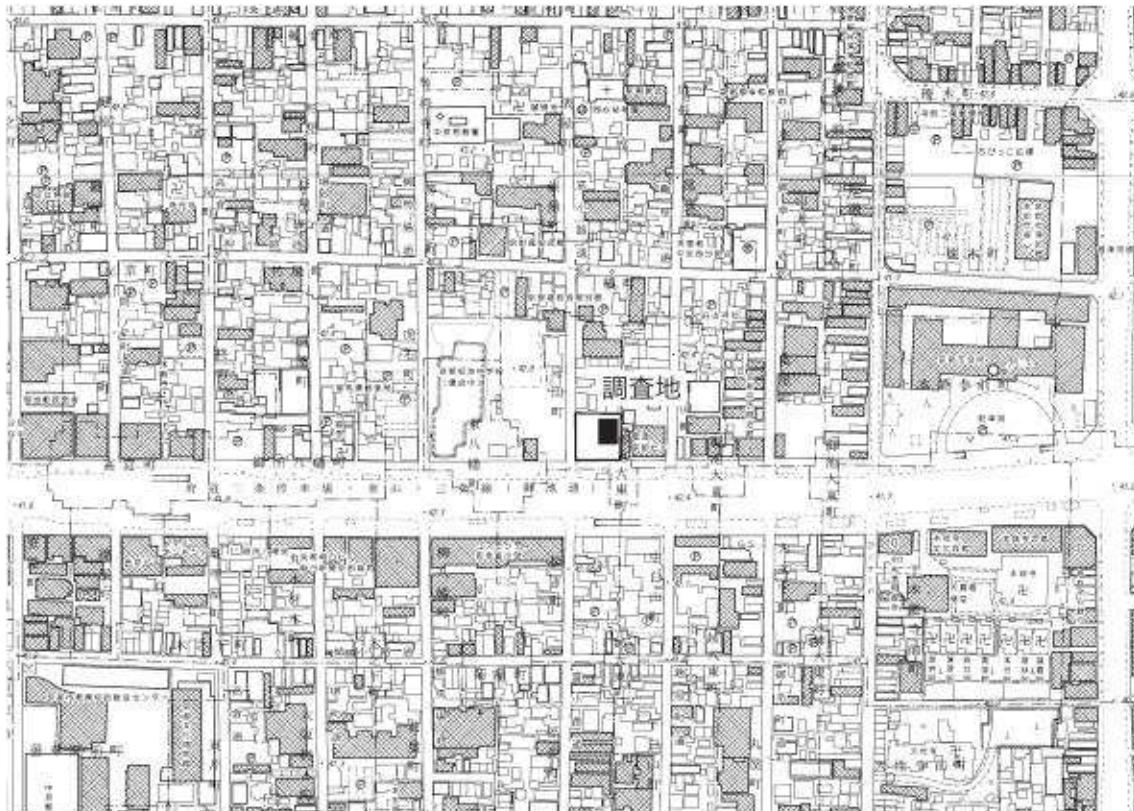


図 1 調査地位置図 (1/5,000)

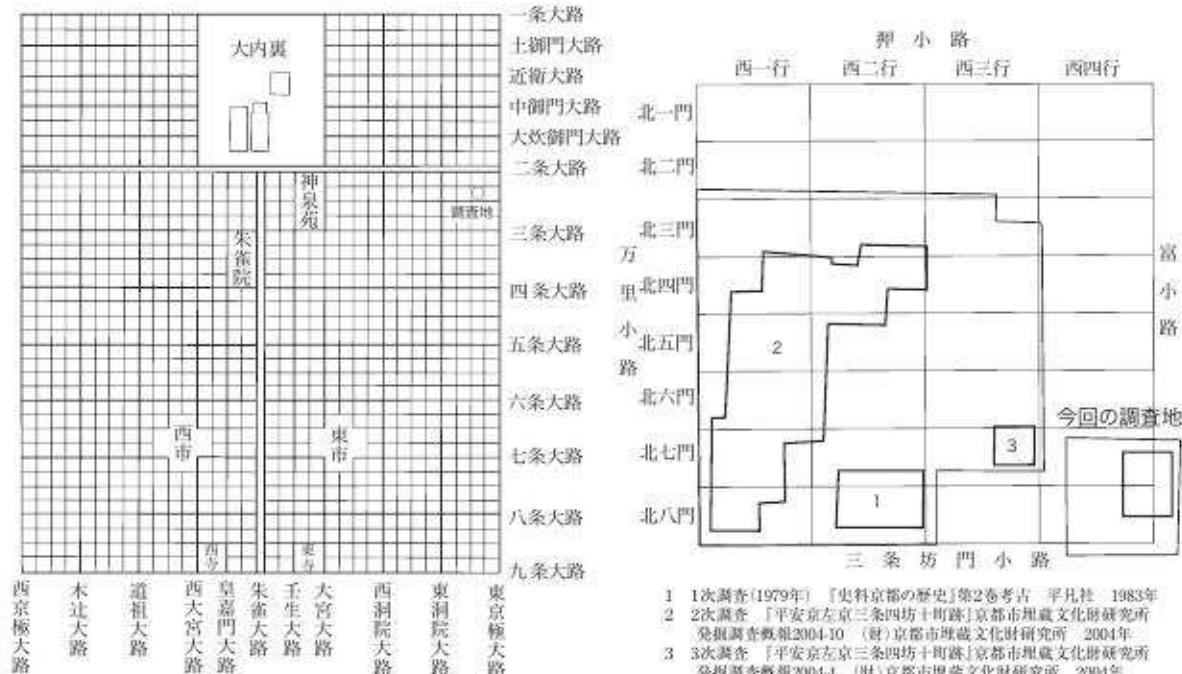


図2 平安京条坊と調査位置図

図3 四行八門と調査位置関係図(1/2,000)

將右大臣従二位で薨じ、十一月には従一位が贈られている。永頼（932～1010年）は従三位までのぼり、美作・尾張・伊勢・讃岐・大和・丹後・近江と七カ国の受領をつとめた。鎌倉時代、この町には善法院があり、弘長2（1262）年に親鸞上人がこの寺で入寂している。桃山時代には秀吉による都市改造で富小路は現在の位置に移動する。

調査は平成23（2011）年4月11日から同年5月27日までの間、調査面積221m²を4面にわって行った。

なお、調査の方法としては、（財）京都市埋蔵文化財研究所が作成した平面直角座標系VIによる平安京の復原モデル60を使用し、4mメッシュのグリッドを設定し、遺構遺物の記録をとる方法をおこなった。

左京三条四坊十町の築地四隅の座標値（新測地系）はそれぞれ以下の通りである。

左京三条四坊十町

| | | | |
|----|---------------------------------|----|---------------------------------|
| 北西 | X=-109,564.67m Y=-21,539.91m | 北東 | X=-109,564.18m Y=-21,420.52m |
| 南西 | X=-109,684.05m Y=-21,539.42m | 南東 | X=-109,683.57m Y=-21,420.04m |

III 遺構

現表土下約1.1m程で第1面とした近世初頭頃の遺構面に達する。以後、室町後期の整地層と、平安前期から室町時代の富小路路面を5~6面と西側側溝を確認した。路面の西側はやや低くなっている。その部分に室町後期の整地層（東西セクション・第3層）が堆積し近世の遺構面となる。表土下1.8m程で自然堆積層の上面となる。

平安時代前期～室町時代

富小路路面と西側側溝（図版2～5・7～8・9の1・10の1～3と7～8）

調査区東半部で道路遺構を検出した。南北方向の小路で富小路の路面と西側側溝である。路面第1面は室町後期であり、これ以後の路面は認めらない。桃山時代の天正地割により調査地の西側を通る現在の位置に移動したものと思われる。路面部分には江戸時代の遺構が成立展開する。桃山時代にはすでに道路としての機能を停止していた可能性がある。室町時代の路面には明確な側溝が伴っていないが、土壌39・42等が凹みとしてあり西側溝としての機能を果たしていたと思われる。路面は部分的な改変も含め全部で6面ほど確認している（東壁・第13層～17層、東西セクション第9層～14層）。最も初期の路面は東壁第17層の上面で検出した。各路面からの出土遺物は極めて少なく時期を確定することは困難であるが、その西肩部分の土から9世紀後半代の土器が検出されその頃までには施工されていたものと思われる。以後総計0.6m程度の厚さに積み重なって室町時代まで存続することになる。

西側側溝（東西セクション第4層～8層）は最大部で幅が2.3m、深さも路面から1.2mほど低く、延喜式の京程の溝幅3尺に比べるとかなり大規模な状況となっている。遺物の出土状況も10世紀代、11世紀代のものが入り混じって出土し、上層からは平安時代後期以降のものも混じり、幾回かの改変を受けた結果とも考えられる。

平安時代中期～平安時代後期

第4面では道路遺構とともに大型の土壙や不整形な土壙などを検出。

土壙147（図版4・8の1）

東西セクションを挟んで南北4.2m、東西1.9m、深さ0.7～0.8mを測る大型の遺構である。2.5Y4/3オリーブ褐色泥砂に2.5Y4/2暗灰黄色砂泥が混じった土が堆積。ちょうど富小路西側築地心の位置に当たる。11世紀代の遺物が出土する。

土壙156（図版4・8の1）

土壙147の北側にあり、南北1.9m、東西2.2m、深さ1.1mを測り、2.5Y4/3オリーブ褐色泥砂が堆積。径1.2mの円形の堀形を中心として3方向に径0.6～0.8mの円形の堀形が取りつくようにあり特異な構造となっている。11世紀代の遺物が出土する。

土壙148（図版4・8の1）

調査区北西部分で検出。東西幅約3.2mを測り北側は新しい遺構に切られて形状は不明である。深さ0.4mを測り、2.5Y4/3オリーブ褐色泥砂が堆積する。11世紀の土器類と平城宮型式の軒平瓦などが出土している。

土壙150(図版4・8の1)

調査区西部中央で検出。不整形で自然の凹みを埋めた整地層の一部の可能性が高い。深さは0.3~0.4mで、径8cmの礫が多く混じる2.5Y4/3オリーブ褐色泥砂が堆積する。11世紀の土器類が出土。

平安時代後期~室町時代前期

第3面は11世紀代の遺構や自然の凹みが埋められた面に成立する。道路遺構や多くの柱穴や土壙があり、柱穴は石が据えられているものも確認できる。建物が認められる並びを持つものはない。

土壙120(図版3・7の2)

東西セクション沿いに検出。東西0.75m、深さ0.25mを測る。2.5Y4/3オリーブ褐色泥砂が堆積。11世紀の遺物が出土。

柱穴103(図版3・7の2)

調査区北西部で検出。柱当りが径0.2m、2.5Y3/2黒褐色砂泥が堆積、堀形は径0.4m前後、2.5Y4/3オリーブ褐色泥砂が堆積、深さ0.35mを測る。11世紀代の遺物が出土。

他に、11世紀代の遺物を含む遺構は土壙100・128、柱穴82・94・97・101・105・110などがある。

土壙127(図版3・7の2)

調査区中央部で検出。南北0.7m、東西0.4m以上、深さ0.35m程を測り、2.5Y3/3暗オリーブ褐色泥砂が堆積する。12世紀代の遺物を含む。

柱穴73(図版3・7の2)

調査区西部中央で検出。南北0.39m、東西0.38m、深さ0.1mを測り、2.5Y4/3オリーブ褐色泥砂が堆積する。12世紀代の遺物が出土する。

他に12世紀代の遺物を含む遺構は土壙57・75・76・77・83・87・126、柱穴50・53・58・66・69・70・74・125などがある。

土壙47(図版3・7の2)

調査区南西部で検出。南北1.45m、東西0.48mの南北に細長い形状で、深さ0.15m、2.5Y3/3暗オリーブ褐色泥砂が堆積し、13世紀後半代の土師器皿類がまとまって出土した。

土壙85(図版3・7の2)

東西セクション沿いに検出。東西1.45m、南北1.05m以上、深さ0.16mを測る。2.5Y4/4オリーブ褐色泥砂が堆積。13世紀の遺物が出土。

他に13世紀代の遺物が出土した遺構は土壙52・61・63・89・115・116、柱穴88・106・108・119がある。

土壤 78 (図版3・7の2)

調査区西部中央にて検出。南北0.88m、東西0.62m以上、深さ0.15mを測る。炭片が少量混じった2.5Y3/2黒褐色泥砂が堆積する。14世紀代の遺物が出土。

他に14世紀代の遺物が出土した遺構は土壤79、柱穴93がある。

室町後期

第2面は室町時代後期の面で、平安時代からの富小路が西へ約30mほど移動する直前の状況が見て取れる。

土壤 39 (図版2・7の1)

調査区ほぼ中央で検出。東西幅約3.0m、南北5.1m以上を測る。深さは路面から約0.6mである。路面西側で溝状の凹みを形成している。10YR3/3暗褐色～同4/3にぶい黄褐色の砂礫が堆積する。15世紀後半～16世紀前半の遺物が出土している。

他に同時期の遺物を含む遺構は土壤40～43がある。

江戸時代以降

第1面は近世の遺構面で井戸や石室等の大型の遺構を検出している。

土壤 22 (図版1・6の2)

調査区南東部の東壁沿いに検出。東西1.2m以上、南北3.1m以上、深さ1.2mを測る。10YR3/3暗褐色砂泥、同4/3にぶい黄褐色砂泥、同3/2黒褐色泥砂、炭などが互層に堆積する。17世紀代の遺物が出土している。

土壤 14 (図版1・6の2・9の5、図4)

調査区南東部で検出。内径が1.0～1.1mの円形の石組で、2段ほどが確認できる深さは0.5m

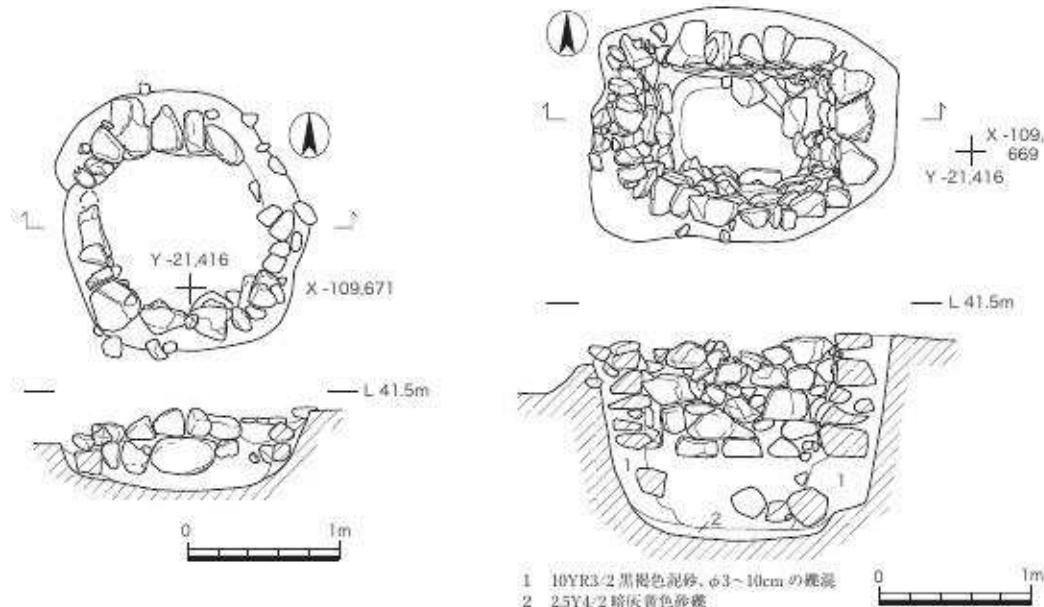


図4 土壌14実測図 (1/50)

図5 土壌12実測図 (1/50)

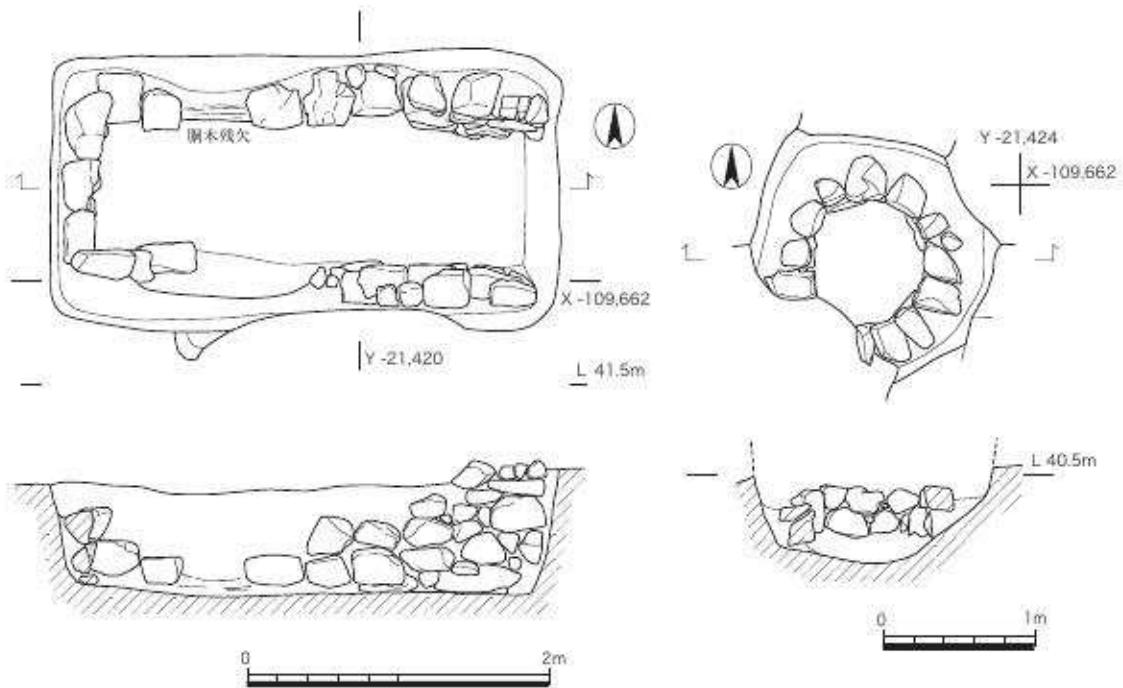


図6 土壙03 実測図 (1/50)

図7 井戸02 実測図 (1/50)

程である。石組内には炭や焼土が入り混じった10YR2/1黒色砂泥が、石組の堀形には10YR3/2黒褐色泥砂が堆積する。17世紀末～18世紀前半くらいの土器群が出土している。

土壙12（図版1・6の2・9の4、図5）

調査区東部中央にて検出。長方形のプランをもつ石組の遺構で、上段部分での内径は東西1.3m、南北0.9mの長方形のプランをもつ。5～6段程度が残存し、底部までの深さは1.3mである。石組内には10YR3/3暗褐色砂泥が堆積。17世紀中頃の遺物が出土している。

土壙03（図版1・6の2・9の3、図6）

調査区北部中央で検出。東西約3.0m、南北0.9mの長方形のプランをもつ石組の土壙であるが、東側には石組が積まれていない。深さは0.8m前後を測る。北側、南側の石組は一部抜き取れらでいるが、北側の最下部に胴木の痕跡を確認することができた。東側は痕跡は確認できていないが板が当てられていた可能性がある。石組内には炭の混じった2.5Y4/3オリーブ褐色砂泥が、堀形は2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂泥が堆積する。18～19世紀前半の遺物が出土した。

井戸02（図版1・6の2・9の2、図7）

調査区西部北側で検出。内径0.75～0.8mの円形の石組が2段ほど、深さ0.6m程が残存していた。石組内には2.5Y4/2暗灰黄色砂泥、堀形には2.5Y3/2黒褐色砂泥が堆積していた。18～19世紀前半の遺物が出土した。

IV 遺 物

出土遺物は整理箱にして44箱ある。平安時代以前の土器は弥生土器片（畿内V様式）、6～7世紀くらいの須恵器杯身の破片が極少量出土している。これらは遺構に伴って出土したものではないが、烏丸御池遺跡に関連するものと思われる。他は平安時代の前期から、中世、近世と各時代にわたる遺物が出土しており、その中から主なものについて記述する。

なお、時代区分は平安京の土器編年をもとにおこなう。^{註1}

路面西肩、溝46出土土器（図版11、図8）

土師器杯A（1）、同皿A（2）は初期の富小路路面の西肩部より出土したもので、1は口径18.0cm、2は口径15.6cmを測る。色調は両者とも7.5YR6/6の橙色を呈す。平安京II期古くらいのものと思われる。溝46からは土師器杯（6～8）、同皿A（3～5・9）、同皿N（10・11）、黒色土器A類椀（12）、白土器皿（13）、須恵器鉢（14）、輸入磁器白磁椀（15）が出土している。土師器杯は口径14.4～16.0cm、同皿Aの3～5は口径10.4～10.9cm、同皿Aの9は口径9.9cm、同皿Nの10は口径10.3cm、同11は口径16.0cmを測る。色調は3が10YR8/3浅黄橙色～7.5YR8/4浅黄橙色、4が7.5YR7/6橙色～10YR8/2灰白色、5が7.5YR7/6橙色、6が10YR8/3浅黄橙色、7が10YR8/2灰白色、8が7.5YR7/6橙色～10YR8/3浅黄橙色を呈し、9は10YR7/3にぶい黄橙色、10が7.5YR8/3浅黄橙色、11が10YR8/4浅黄橙色となっている。黒色土器A類椀12は口径16.0cmで、胎土の色調は10YR7/4にぶい黄橙色で、内面から口縁外周まで炭素が吸着する。内面は磨いている様子であるが痕跡がはっきりしない。13は色調が10YR8/2灰白色で、高台は削り出す。14はN5/灰色で丹波篠窯跡群の製品と思われる。15は胎土が7.5YR8/1灰白色、釉が10YR8/1灰白色に発色している。3～8・12～14は平安京II期新～III期古、9～11・15は平安京IV期中～新に属する土器群と考えられる。

土壤148出土土器（図版11～12、図9）

土師器皿A（16～19）、同皿N（20～24）、灰釉陶器椀（25～28）、須恵器鉢（29・30）、輸

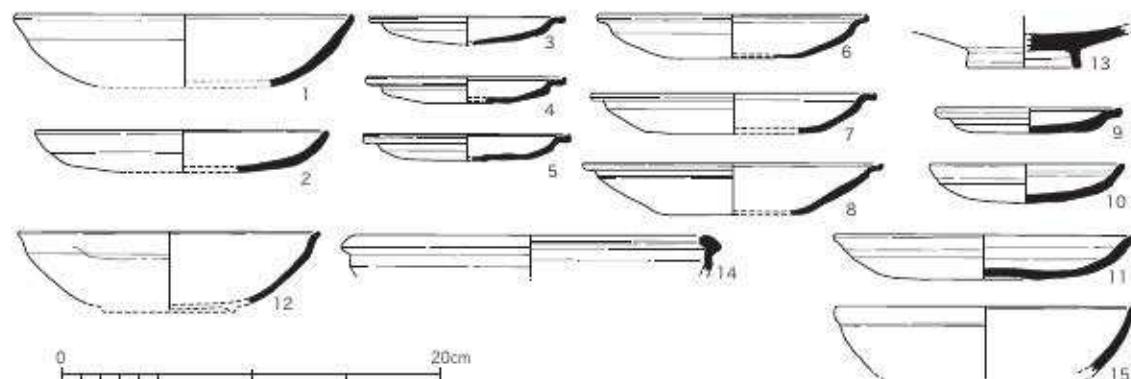


図8 路面西肩部、溝46出土土器実測図（1/4）

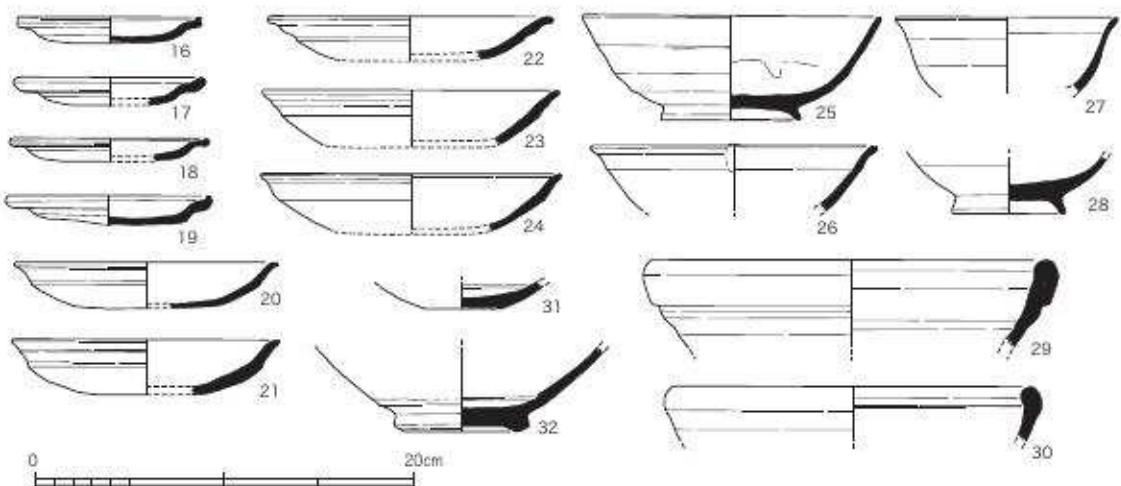


図9 土壌148出土土器実測図 (1/4)

入磁器白磁皿 (31)、同白磁椀 (32) が出土している。口径は 16～19 が 9.8～11.0cm、20～24 が 14.0～16.0cm を測る。色調は 16 が 25Y6/2 灰黄色、17・20 が 7.5YR7/4 にぶい橙色、18・21 が 7.5YR8/4 浅黄橙色、19・22～24 が 10YR8/3 浅黄橙色となっている。25 は口径 15.8cm、26 は 15.2cm、27 は 11.8cm を測る。26 は口縁に輪花に加工した痕跡があるが小片のため詳細は不明である。25 は 10YR7/1 灰白色、26 は胎土が 5Y7/1 灰白色、釉の部分は 5Y6/2 灰オリーブ色、外面部分は 10YR7/3 にぶい黄橙色、27 は 5Y7/1 灰白色、28 は胎土が 25Y7/1 灰白色、釉部分が 5Y8/1 灰白色となっている。25・28 の高台は貼り付けである。29 は口径 22.0cm、色調は 5Y6/1 灰色、30 は口径が 20.0cm、色調は 5Y8/1 灰白色を呈す。29・30 は丹波篠焼跡群の製品と思われる。31 は胎土が 7.5Y8/1 灰白色、釉部分が 10Y8/1 灰白色、32 は胎土が 5Y7/2 灰白色、釉部分が 7.5Y7/2 灰白色に発色。平安京IV期中に属する土器群と見ていている。

土壤47出土土器 (図版12、図10)

土師器皿N小 (33～36)、皿N大 (37・38) が出土している。口径は 33～36 が 8.1～8.4cm、37・38 は 12.3～12.8cm を測る。色調は 33 が 10YR7/3 にぶい黄橙色、34～36 は 7.5YR7/4 にぶい橙色、37 は 10YR7/4 にぶい黄橙色、38 は 10YR7/3 にぶい黄橙色を呈する。平安京VII期古に属する一群と考えている。

土壤39出土土器 (図版12、図11)

土師器皿S(39～42)が出土している。口径は 39・40 が 11.6～11.8cm、41・42 が 13.8cm を測る。色調は 39・42 が 10YR8/3 浅黄橙色、40 が 7.5YR8/3 浅黄橙色、41 が 7.5YR7/6 橙色となっている。平安京X期中の幅に収まる一群と思われる。

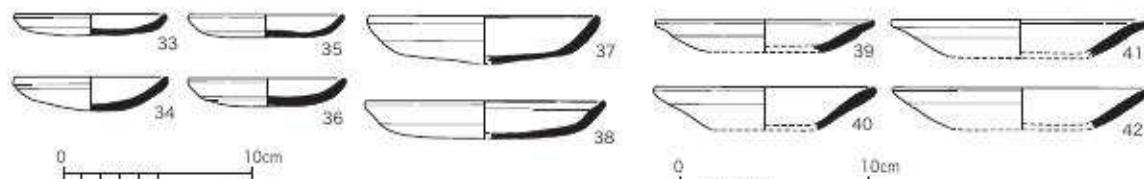


図10 土壌47出土土器実測図 (1/4)

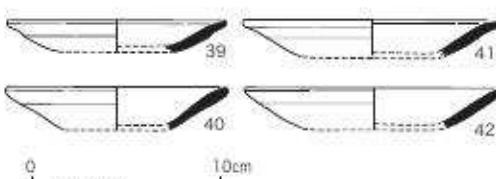


図11 土壌39出土土器実測図 (1/4)

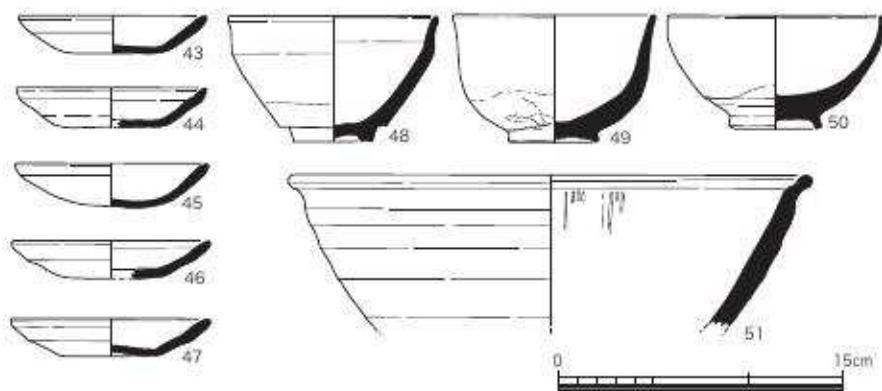


図 12 土壌 22 出土土器実測図 (1/4)

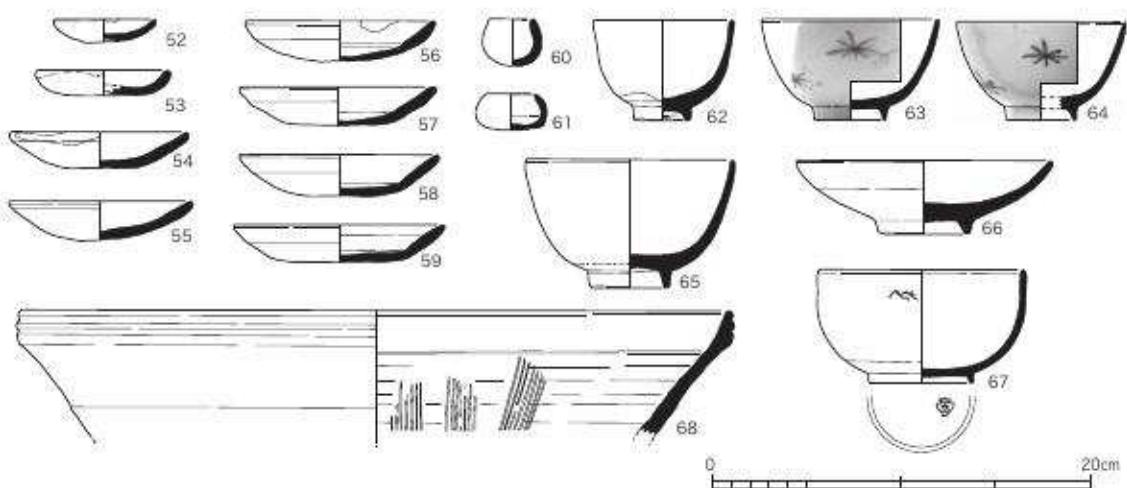


図 13 土壌 14 出土土器実測図 (1/4)

土壤 22 出土土器 (図版 12・13、図 12)

土師器皿 Sb (43～45)、同皿 S (46・47)、美濃瀬戸系陶器天目椀 (48)、唐津系陶器鉄釉椀 (49)、同青釉椀 (50)、焼締陶器信楽播鉢 (51) が出土している。43～45 の口径は 10.0～10.3cm、46・47 は 10.5～10.6cm を測る。色調は 43 が 10YR8/2 灰白色、44 が 7.5YR8/4 浅黄橙色、45 は 10YR8/3 浅黄橙色、46 は 10YR8/3 浅黄橙色で口縁の一部が 10YR6/6 明黄褐色に変色、47 は 10YR8/4 浅黄橙色となっている。48 の口径は 11.1cm、器高は 6.7cm を測り、高台は削り出し。胎土は 10YR8/2 灰白色、釉は 7.5YR4/6 褐色に発色する。49 は口径 10.8cm、器高 6.8cm、高台は削り出で、色調は胎土が 7.5YR7/6 橙色、釉は 10YR3/4 暗褐色に発色する。50 は口径 11.4cm、器高 6.0cm、高台は削り出で、色調は胎土が 7.5YR4/2 灰褐色、釉が 7.5Y6/2 灰オリーブ色～同 6/3 オリーブ黄色に発色する。51 は口径 27.8cm で色調は外側で 2.5YR6/6 橙色を呈する。内側は器表が荒れているために播目の状態など観察しにくい状態となっている。

土壤 14 出土土器 (図版 13・14、図 13)

土師器皿 Nr (52・53)、同皿 Sb (54・55)、同皿 S (56～59)、同小壺 (60・61)、唐津系陶器椀 (62)、伊万里染付椀 (63・64)、伊万里白磁椀 (65)、伊万里青磁皿 (66)、京焼系陶器椀 (67)、鉄釉陶器播鉢 (68) が出土する。52・53 は口径 5.4～7.2cm、54・55 は 9.5～9.8cm、

56～59が10.1～11.2cmを測る。60・61は口径2.3～2.5cm、器高は60が2.5cm、61は1.9cmで61のほうがやや低い。色調は52が7.5YR8/3浅黄橙色、口縁の一部は5YR6/6橙色、53が10YR8/4浅黄橙色、口縁の一部は7.5YR6/6橙色、54は黒変していく10YR3/1黒褐色を呈す。55は外面が10YR7/1灰白色、内面が10YR3/1黒褐色となっている。56は10YR7/3にぶい黄橙色で口縁の一部に煤が付着する。57は7.5YR7/6橙色、58は7.5YR8/3浅黄橙色、59は内面が10YR6/2灰黄褐色、外面が10YR3/1黒褐色で煤が付着する。60・61は2.5Y8/2灰白色を呈する。62は口径7.5cm、器高5.3cmで内面から高台脇付近まで鉄釉を施す。胎土は7.5YR4/3褐色、釉は10YR3/2黒褐色を呈す。63・64は口径9.0～9.4cm、器高5.2～5.4cmを測る。体部外面呉須で文様を施し10B7/4明青灰色に発色する。胎土、釉はN8/灰白色を呈す。65は口径11.1cm、器高6.8cmで、色調は胎土がN8/灰白色、釉の部分は5GY8/1灰白色に発色する。66は口径13.6cm、器高3.9cmを測る。胎土はN8/灰白色で釉は2.5GY7/1灰オリーブに発色、見込み部分は幅1.8cmの幅で輪状に釉を掻き取る。67は口径11.1cm、器高6.0cmで、胎土が10YR8/1灰白色、釉は5Y8/1灰白色に発色する。

高台内にはスタンプが施されている。68は口径38.0cmで内外面は5YR4/4にぶい赤褐色で口縁外面は2.5YR3/2暗赤褐色を呈する。擗目は7本で1単位となっている。

瓦類（図版14、図14）

均整唐草文軒平瓦（69・70）

69の色調は胎土がN6/灰色～7.5YR6/2灰褐色で器表には炭素が吸着してN3/暗灰色を呈する。70の胎土はN8/灰白色、器表は炭素がややとび加減でN6/灰色を呈す。両者とも凹面の布目はケズリによって残されていない。70は凸面に縄目のタタキ痕が残る。69・70は平城宮からの搬入瓦で、平城宮6663C型式とされる瓦である。両者とも土壙148から出土している。

均整唐草文軒平瓦（71・72）

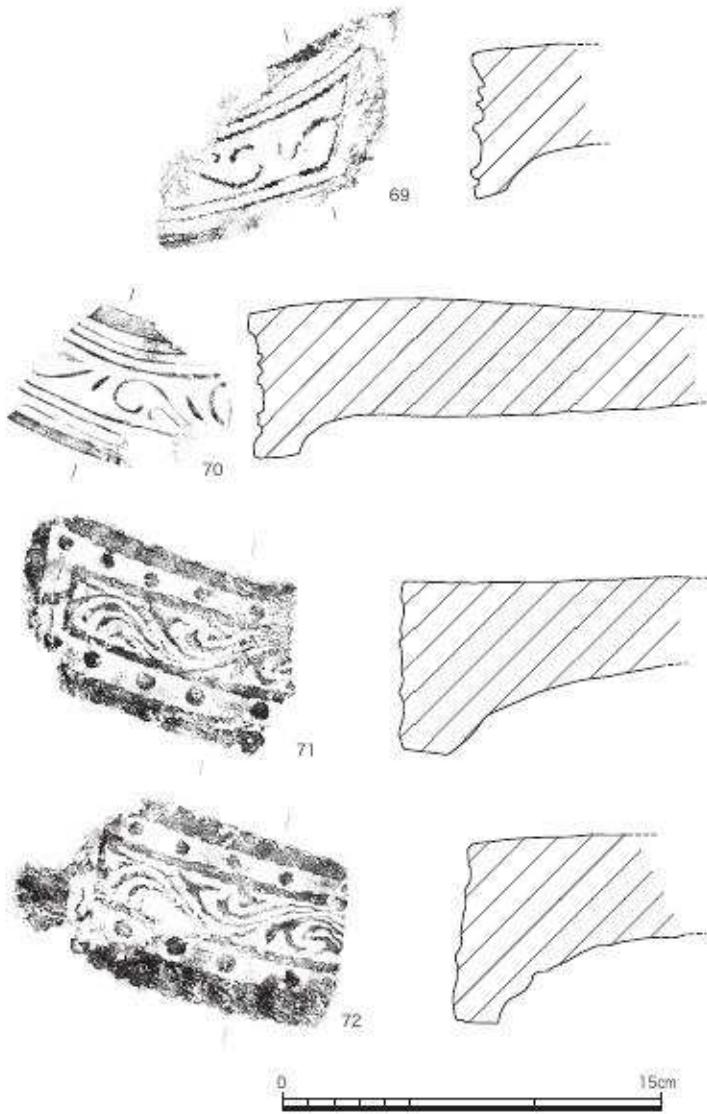


図14 出土瓦拓影・実測図 (1/3)

71・72とも胎土は10YR8/3浅黄橙色から25Y5/1黄灰色で、器表は部分的に炭素が吸着しN4/灰色を呈する。いずれも凹面は瓦当面ぎりぎりまで布目痕が残るが、凸面はきれいにタタキ痕はナデ消されている。この両者は幡枝産で、しかも範傷が一致する部分があり同范の瓦である。これらも69・70と同じく土壙148から出土している。

V 小 結

当調査地は左京三条四坊十町の南東部と調査区の東半部は富小路の道路部分に当たっている。十町の西中央から南西部分はすでに（財）京都市埋蔵文化財研究所によって3次にわたって調査が行われている。弥生時代、古墳時代の自然流路や平安時代以降の遺構、遺物群、特に江戸時代の焼跡等が検出され、付近の遺跡の状況が明らかになってきている。^{註3}

今回の調査では平安時代から室町時代後半に至る富小路の様子を知ることができた。室町時代後半に至り生活の痕跡が薄くなり、桃山、江戸時代に入って再び都市化するという傾向がこれまでの調査でも見て取れる。京都が中世に下京、上京で都市化し両京に挟まれた当地は都市化から取り残され、古くからあった道路も廃絶してしまう状況と考えられる。秀吉の時代に入って都市改造が行われた時点で、富小路が西へずれる意味は古来からの位置が不明確になっていたと見ていいかもしれない。

藤原定方は延喜9（909）年に参議として公卿に列しその後約四半世紀にわたって要職を勤める。ここを受け継いだ孫にあたる藤原永頼は、この東隣の十五町にある「山井殿」も定方から引き継いでいる。その後「中西殿」は永頼の子亮能、「山井殿」は永頼の娘婿の大納言藤原道頼に引き継がれて「采花物語」の舞台となった。富小路は平安時代の古い段階ですでに施工されおり、10世紀～11世紀にかけての痕跡が顕著に認められることは、藤原定方が当地に邸宅（『中西殿』）を構えたことと無縁ではない。こうした歴史的な流れも当地の今回の調査で認められた遺構のあり方、遺物の出土傾向に一致するとみている。

註1 小森俊寛・上村憲章「京都の都市遺跡から出土する土器の編年」「研究紀要第3号」（財）京都市埋蔵文化財研究所 1996年。土師器の型式名称もこれに従った。

註2 「平城宮発掘調査報告書VI」奈良国立文化財研究所 1975年他

註3 「平安京左京三条四坊十町跡」京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2004-10（財）京都市埋蔵文化財研究所 2004年 / 「平安京左京三条四坊十町跡」京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2004-4（財）京都市埋蔵文化財研究所 2004年

遺物概要表

| 時代 | 内容 | コンテナ数 | A ランク点数 | B ランク箱数 | C ランク箱数 |
|--------|--------------------------------|-------|--|---------|---------|
| 平安時代 | 土師器、須恵器、黒色土器、灰釉陶器、白色土器、輸入陶磁器、瓦 | | 土師器 20 点、須恵器 3 点、黒色土器 1 点、灰釉陶器 4 点、白色土器 1 点、輸入陶磁器 3 点、軒先瓦 4 点 | | |
| 鎌倉時代 | 土師器、須恵器、瓦器、輸入陶磁器、焼締陶器、瓦 | | 土師器 6 点 | | |
| 室町時代 | 土師器、瓦器、輸入陶磁器、焼締陶器、瓦 | | 土師器 4 点 | | |
| 桃山時代以降 | 土師器、国産施釉陶磁器、焼締陶器、瓦器、錢貨、瓦 | | 土師器 15 点、美濃瀬戸系陶器 1 点、唐津系陶器 3 点、肥前系磁器 4 点、京焼系陶器 1 点、焼締陶器 1 点、鉄釉陶器 1 点 | | |
| 合計 | | 47 箱 | 72 点 (3 箱) | 44 箱 | 0 箱 |

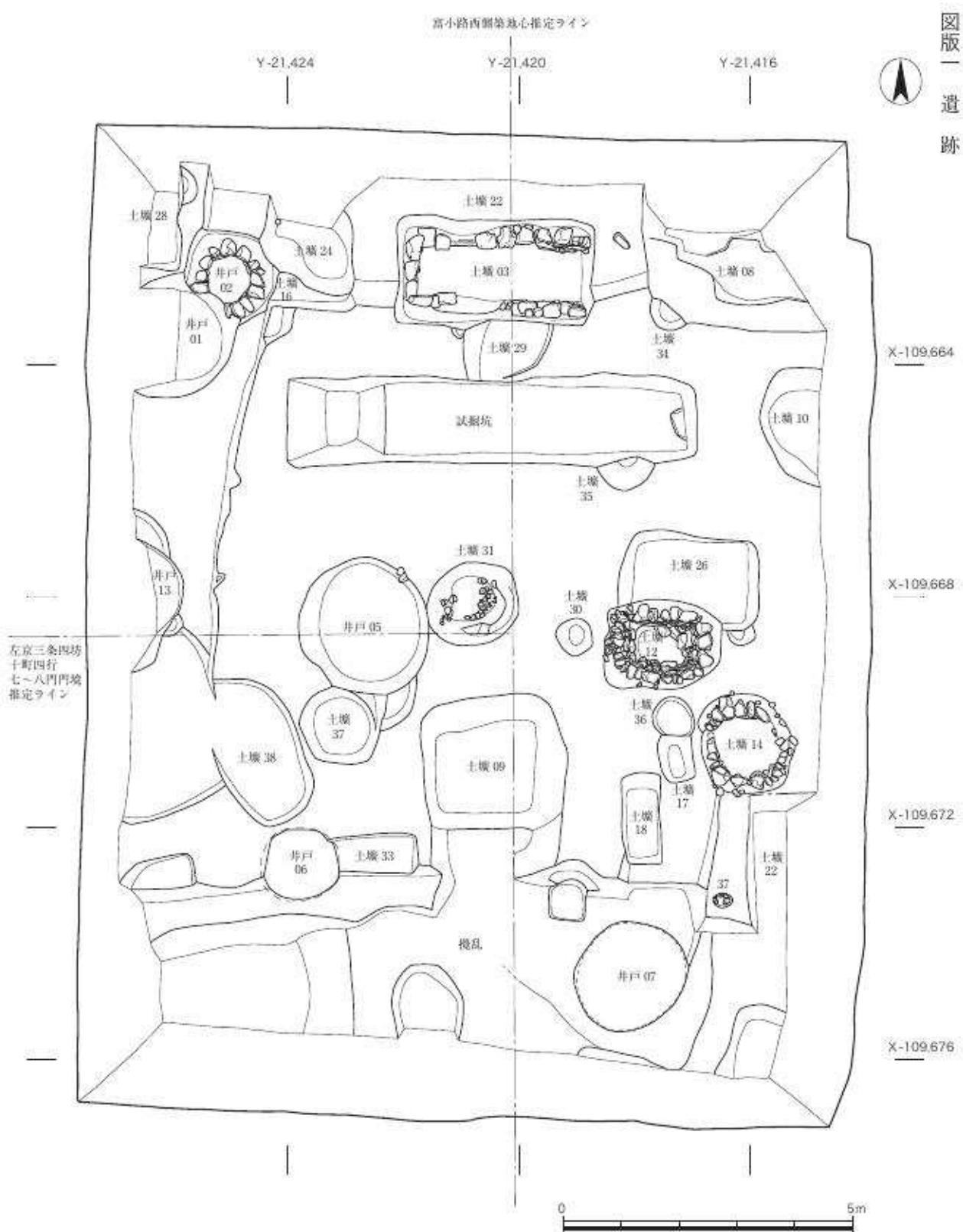
*コンテナ箱数の合計は、整理後、A ランクの遺物を抽出したため、出土時より 3 箱多くなっている。

報告書抄録

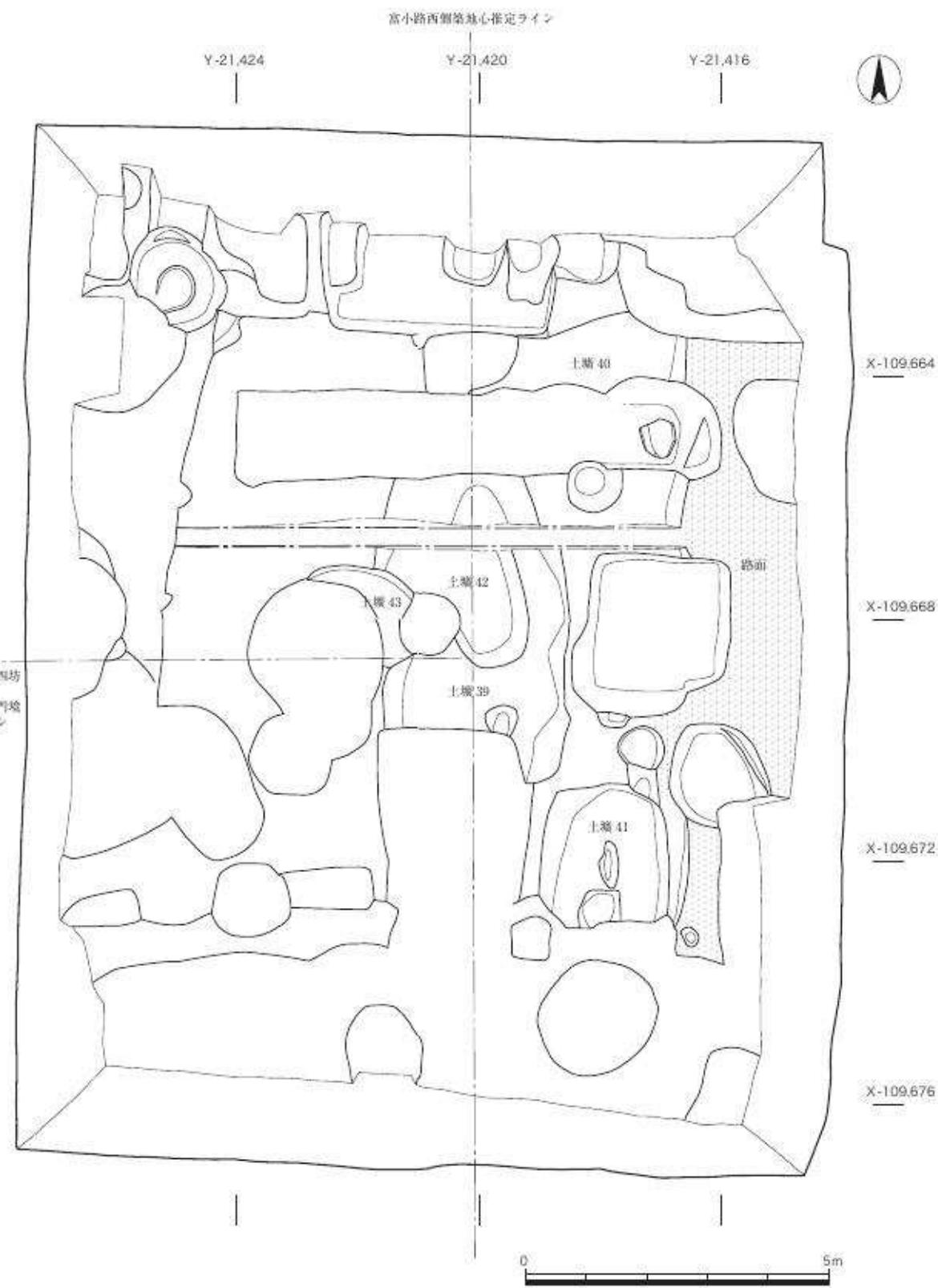
| ふりがな | へいあんきょうさきょうさんじょうしほうじゅっちょう・からすまおいけいせき | | | | | | | |
|--------------------------------|--------------------------------------|---------------|---------------------|--|-----------------------|-------------------------------|--------------------|-------------|
| 書名 | 平安京左京三条四坊十町・烏丸御池遺跡 | | | | | | | |
| 副書名 | | | | | | | | |
| 卷次 | | | | | | | | |
| シリーズ名 | | | | | | | | |
| シリーズ番号 | | | | | | | | |
| 編著者名 | 上村憲章 | | | | | | | |
| 編集機関 | 古代文化調査会 | | | | | | | |
| 所在地 | 〒 658-0032 神戸市東灘区向洋町中1丁目4番地 125-1404 | | | | | | | |
| 発行年月日 | 2011年9月30日 | | | | | | | |
| ふりがな 所収遺跡 | ふりがな 所在地 | コード | | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
| 平安京左京 三条四坊十 町・烏丸御 池遺跡 | 京都府中京区 富小路御池上 ル守山町156 | 市町村 | 遺跡番号 | 35 度 00 分 40 秒 | 135 度 45 分 55 秒 | 2011.04.11 ～ 2010.05.27 | 221 m ² | マンション 建設 |
| 所収遺跡 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 | | | |
| 平安京左京 三条四坊十 町・烏丸御 池遺跡 | 都城跡・集落跡 | 平安時代～江戸 時代 | 富小路路面と側 溝、土壙、柱穴、 | 土師器杯・皿、 須恵器、綠釉陶 器、灰釉陶器、 黒色土器、輸入 陶磁器、瓦類 | | | | |

図 版

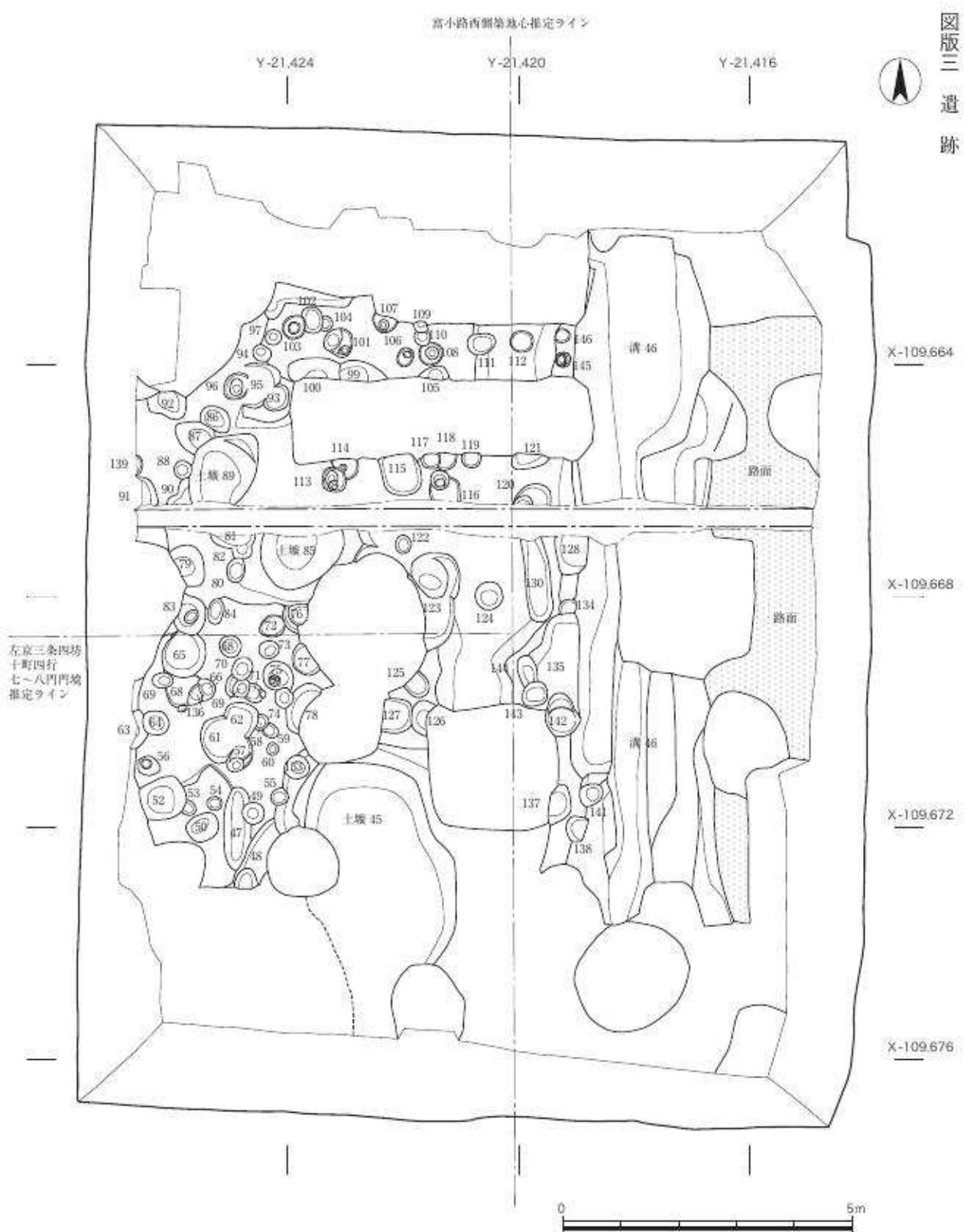
図版一
遺跡



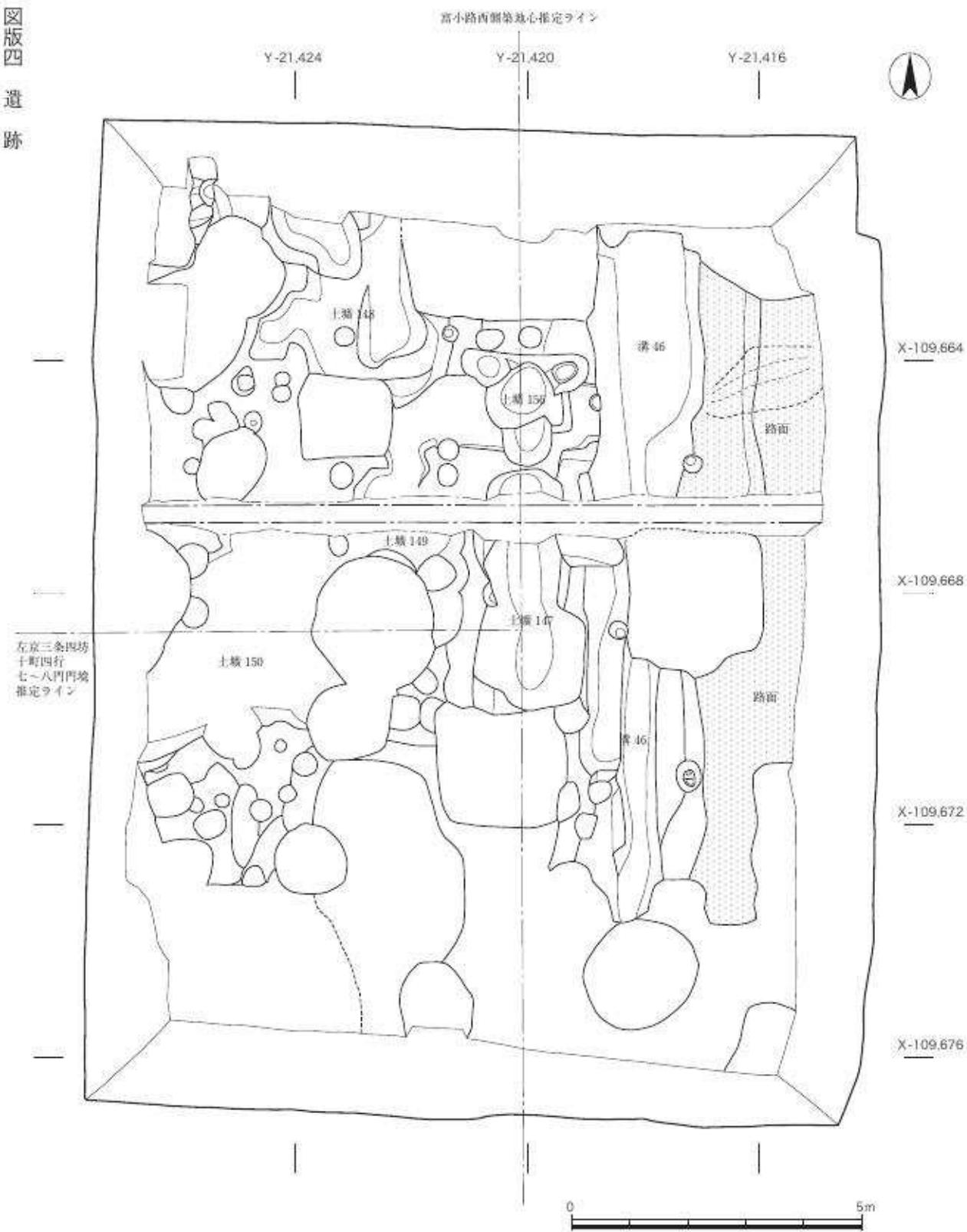
第1面遺構実測図 (1/100)



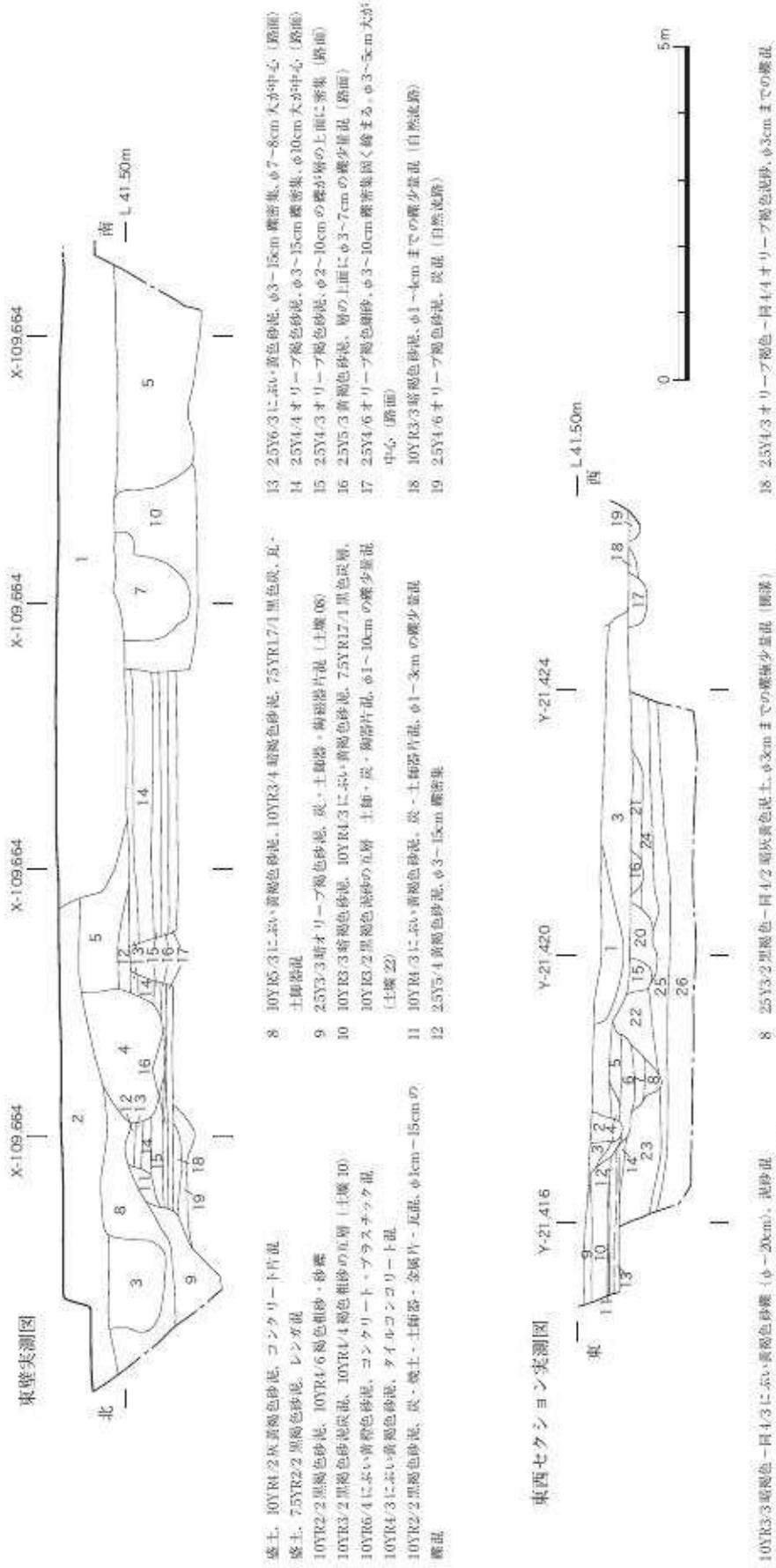
図版三 遺跡



第3面遺構実測図 (1/100)



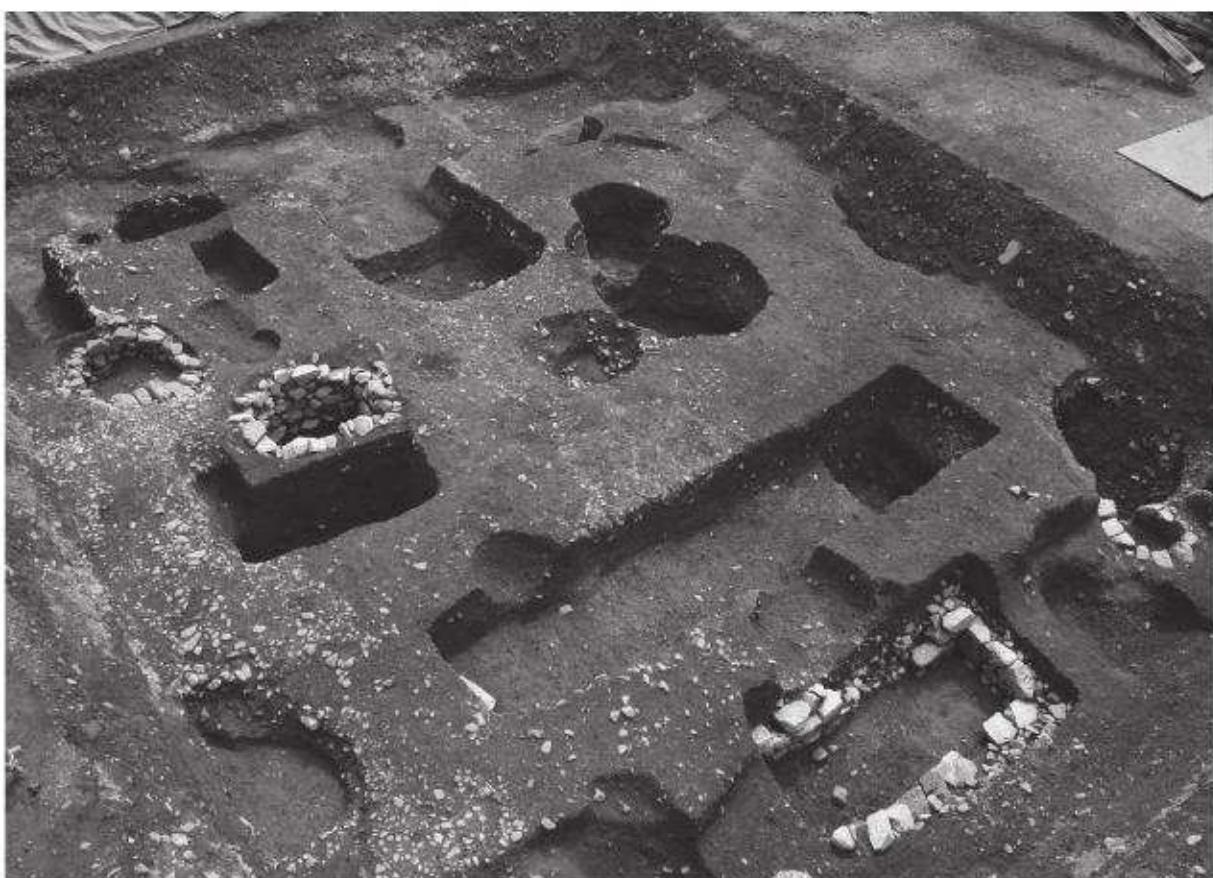
第4面遺構実測図 (1/100)



図五 遺跡 東壁、東西セクション実測図 (1/100)



1 調査地近景（北東から）



2 第1面全景（北東から）



1 第2面全景（北東から）



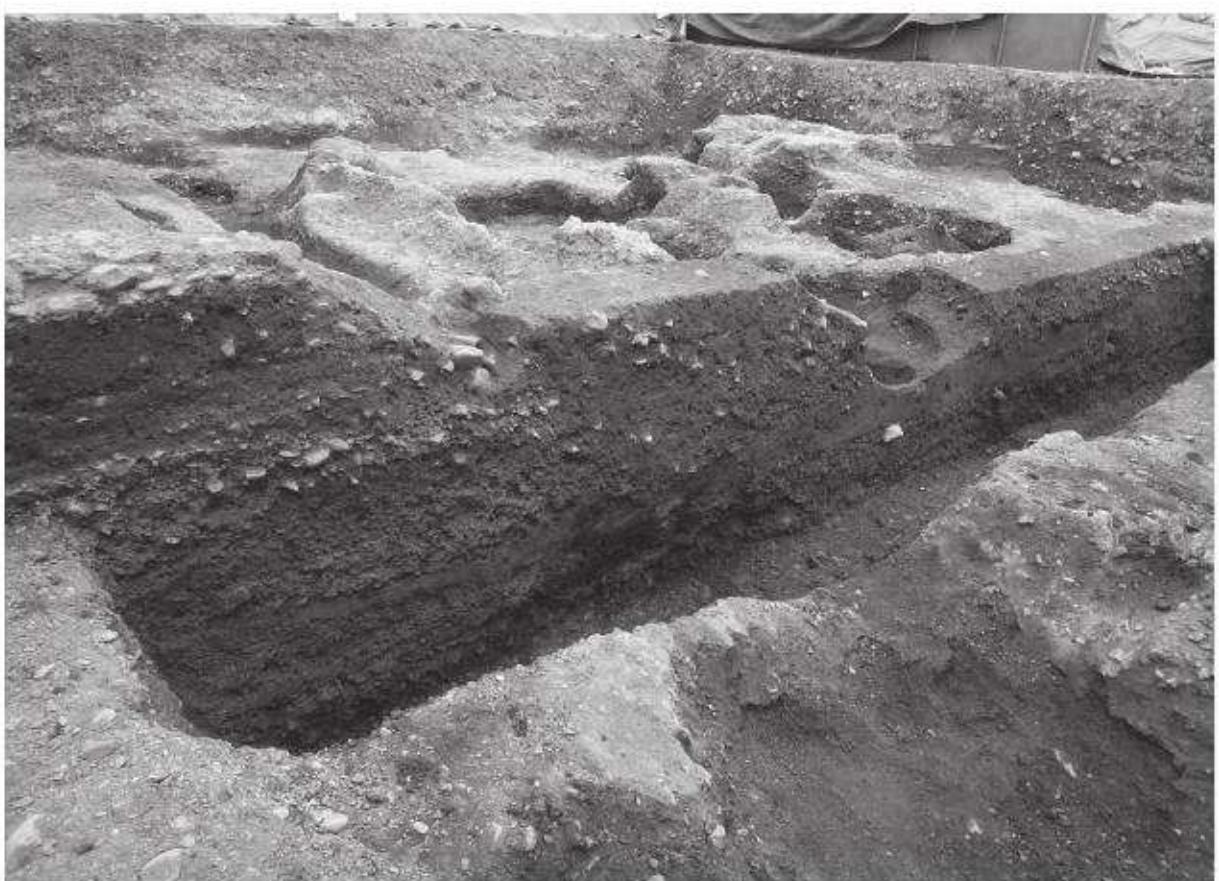
2 第3面全景（北東から）



1 第4面全景（北東から）



2 富小路路面と西側側溝（北西から）



1 東西セクション部分断割り断面（北東から）



2 井戸 02 (南西から)



3 土壙 03 (北東から)



4 土壙 12 (南から)



5 土壙 14 (東から)



1 土壙 39 (北東から)



2 土壙 39 断面 (北から)



3 室町後期の路面 (北西から)



4 柱穴 106 (北から)



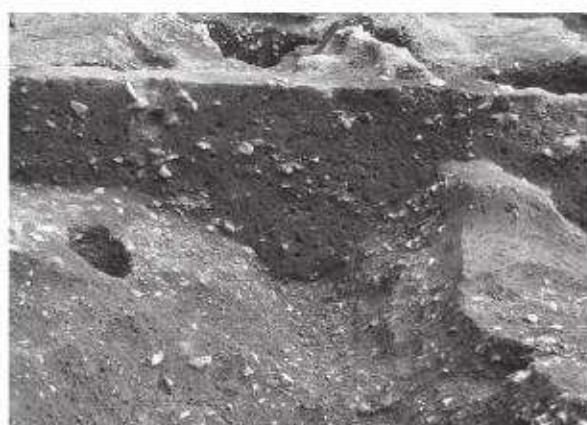
5 柱穴 145 (北から)



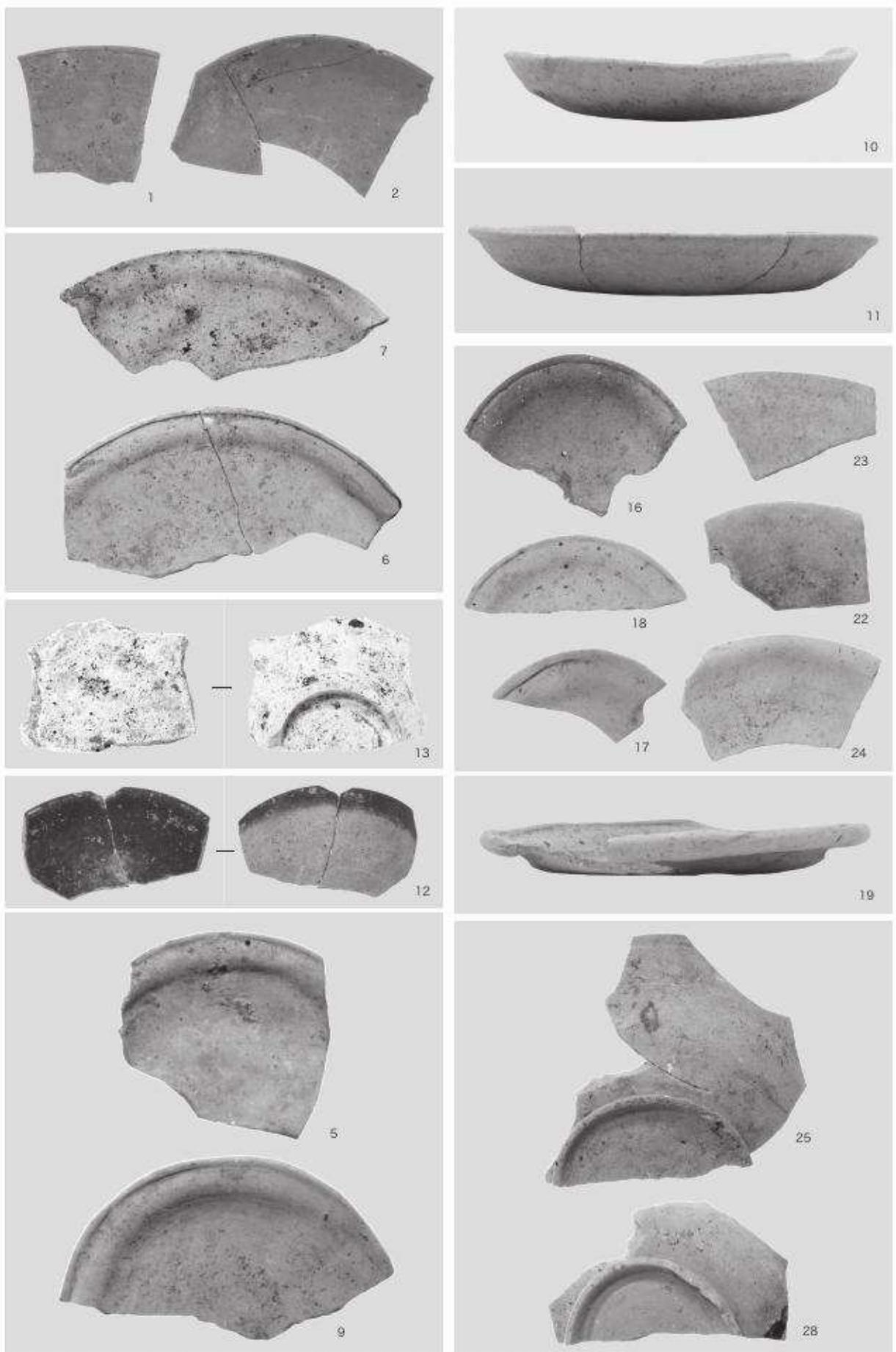
6 柱穴 116 (北から)



7 富小路路面部分 (東から)

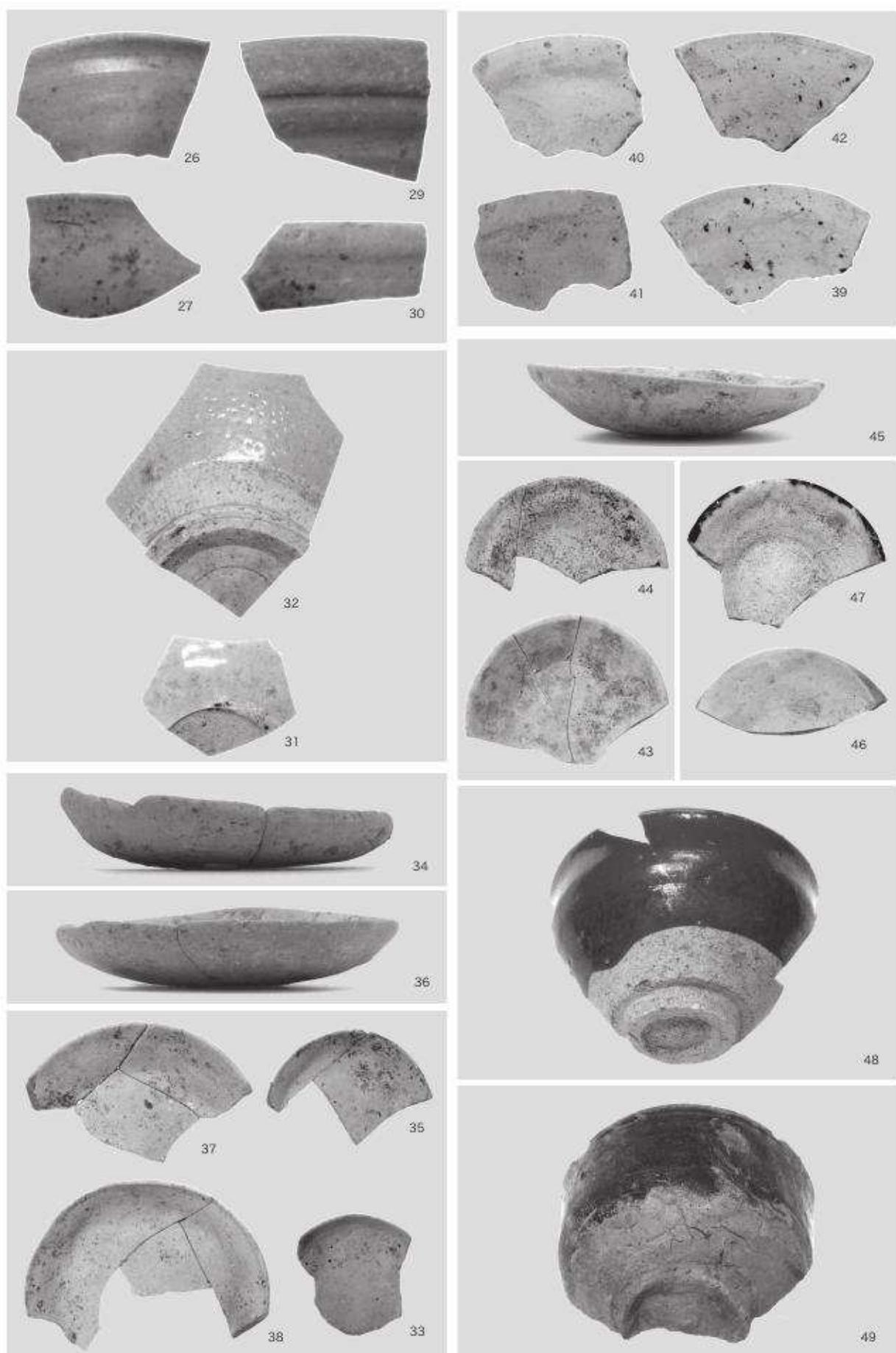


8 富小路西側側溝・溝 46 断面 (北から)

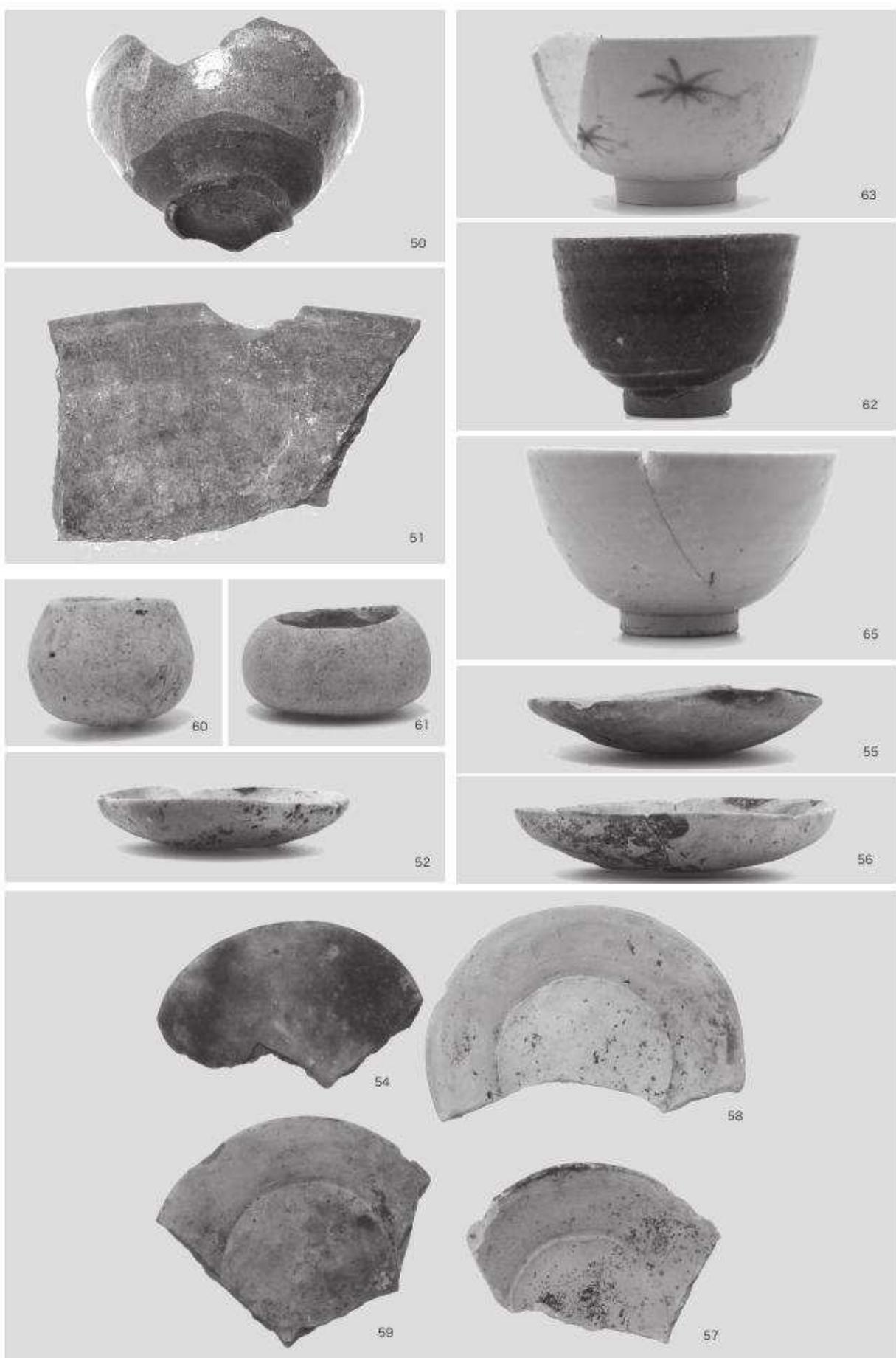


溝46(1・2・5~7・9~13)・土壤148(16~19・22~25・28)出土遺物

圖版十二
遺物



土壤 148 (26・27・29～32)・土壤 47 (33～38)・土壤 39 (39～42)・土壤 22 (43～49) 出土遺物

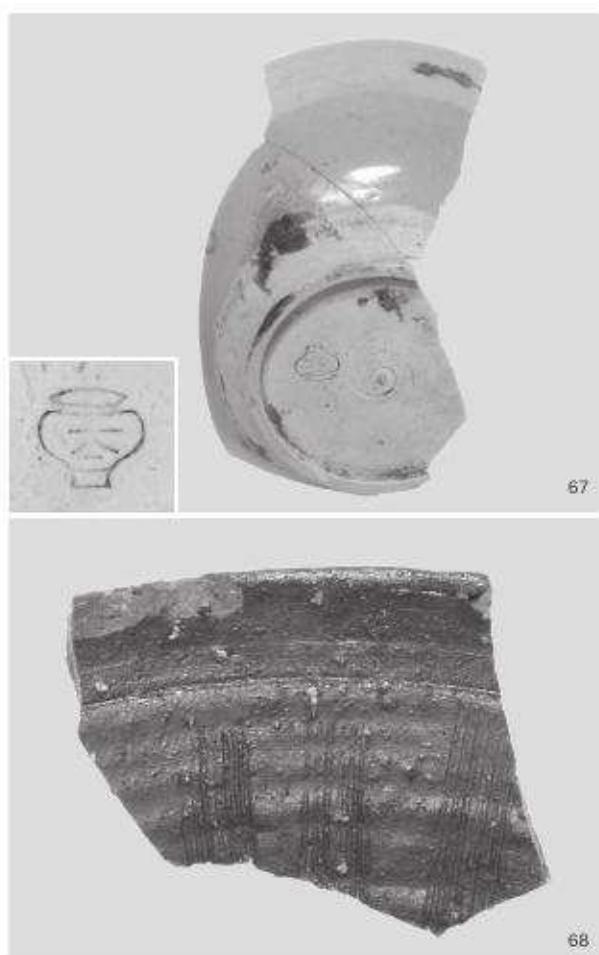


土壙 22 (50・51)・土壙 14 (52・54~63・65) 出土遺物

圖版十四 遺物



66



67



68



69



70



71



72

土壤 14 (66 ~ 68)・土壤 148 (69 ~ 72) 出土遺物

平安京左京三条四坊十町 烏丸御池遺跡

発行日 2011年9月30日

編集発行 古代文化調査会

住所 〒658-0032 神戸市東灘区向洋町中1-4-125-1404
TEL (078) 857-6368

印刷 (有)京都編集工房
〒612-0868 京都市伏見区深草直達橋南1-524-24
TEL (075) 643-6978